


“知の集積地”茨城から世界へ

2019. 秋号
vol.01
【茨城テックプランター】

IBARAKI TECH PLANTER



**技術シーズの社会実装をしたい研究者と
県内企業が共に産業創出を目指す
茨城テックプランター2019 始動!**

特別対談

茨城県知事 大井川 和彦 氏 × 研究者集団リハネス 高橋 修一郎
県の総力で産業創出のエコシステムを創る

CONTENTS

03 特別対談

“知の集積地”の新たな挑戦
県の総力で産業創出のエコシステムを創る
茨城県知事 大井川 和彦 氏 ×
株式会社リバネス 代表取締役社長COO 高橋 修一郎

08 茨城テックプランター2019 始動! 募集要項・スケジュール

10 第2回茨城テックプランングランプリ概要

13 茨城テックプランター2018 チームインタビュー

16 茨城テックプランター2018の軌跡

18 茨城テックプランターエントリー者向け リアルテックスクール紹介

19 研究開発型ベンチャー×中小企業で世界の課題解決に挑む ～世界初のテクノロジーを具現化する仲間を求む～

20 パートナー企業からの声

23 茨城の創業応援 ～地方銀行の挑戦～

“知の集積地”茨城から世界へ

IBARAKI TECH PLANTER

2019. 秋号
vol.01

【茨城テックプランター】

2019年9月1日 発行

編集長 河嶋 伊都子

記者 川名 祥史、環野 真理子、
小松 大祐

編集 立花 智子

表紙・DTP K5 ART DESIGN OFFICE.
(甲高 美徳)

発行人 丸幸弘

発行元 株式会社リバネス
〒162-0822
東京都新宿区下宮比町1-4
飯田橋御幸ビル5階
TEL.03-5227-4198
FAX.03-5227-4199
E-MAIL LD@lne.jp
<https://lne.st>

発刊によせて

雑誌「IBARAKI TECH PLANTER」は、茨城県が令和元年度ベンチャー企業創業・事業化支援業務として取り組んでいる、県内の産業創出に資する活動を紹介する雑誌です。茨城県は数多くの大学や国等の研究機関が存在する世界有数の研究開発拠点として、最先端の技術シーズが集積しています。この茨城県の強みを活かし、世界へ羽ばたくベンチャーを生み出していくエコシステムの構築を目指して、本事業では技術シーズの発掘・育成プログラム「茨城テックプランター」を開催しています。この取り組みには技術の社会実装を求める研究者や、本趣旨に賛同してくださった事業会社がパートナー企業として参画、また研究機関からの協力も集まり始めています。しかしながら、茨城県には未だ発掘されず日の目を見ていない技術シーズや、うまく連携先を見つけれない研究者が多く存在することを、昨年度までの取り組みで、私たちは実感しております。そのため、本誌をご覧いただいた研究者の皆様には本取り組みへのご参加をお願いするとともに、彼らを応援し、茨城県における新産業の発展を共に目指してくれる方には、パートナーとして我々の挑戦をご支援いただけますと幸いです。(株式会社リバネス 河嶋 伊都子)

SPECIAL

特別
対談

TALK

“知の集積地”の新たな挑戦 県の総力で産業創出の エコシステムを創る

高橋
修一
郎株式会社リバネス
代表取締役社長 COO大井川
和彦
氏
茨城県知事

茨城県は複数の大学を有するほか、つくば地区には29の国等の研究・教育機関が、また東海地区には原子力関係の研究機関が集積し、日々最先端の研究を進めている世界有数の研究開発拠点である。2018年の11月には「新たな県総合計画～『新しい茨城』への挑戦～」が策定され、「活力があり、県民が日本一幸せな県」を目指した取り組みが始まっている。計画では、4つのチャレンジと20の「挑戦する政策」を掲げ、そのうち「新しい豊かさ」へのチャレンジとして新産業の育成、また、「新しい夢・希望」へのチャレンジとして世界に飛躍するベンチャー企業の創出・育成に力を入れており、2018年度から、研究開発型ベンチャーを創出するための取り組み「茨城テックプランター」を開始した。こうした活動を通じて描く「新しい茨城」の姿について、茨城県知事大井川氏と日本全国で数々のテクノロジーベンチャーの創出を行っている、株式会社リバネスの高橋が対談を行った。

茨城県のポテンシャルを 最大化する

高橋：茨城県はつくばを中心とした科学技術はもちろんのこと、日立を中心としたものづくり、さらには一次産業も盛んで豊富な実証フィールドもある、まさに「知の集積地」。こうした要素が物理的に密集しているということは、産業創出にとっては大きな強みだと感じています。

大井川：ありがとうございます。ベンチャー創出の観点でも、筑波大学発ベンチャーの数は東大・京大につぎ全国第3位です。やはり県としての活力を高めていくためには、こうした大学や研究機関から生み出される技術シーズの可能性を最大化し、産業にまで育てていくための仕組みを、県全体で創り上げていくことが非常に重要です。

高橋：研究者が茨城県内でベンチャーを立ち上げ、活動を継続していくためには、それを応援してくれるエコシステ



高橋 修一郎 (たかはし しゅういちろう)
株式会社リバナス 代表取締役社長COO

茨城県日立市生まれ。東京大学大学院新領域創成科学研究科博士課程修了、博士(生命科学)。設立時からリバナスに参画。大学院修了後は東京大学教員として研究活動続ける一方でリバナスの研究所を立ち上げ、研究開発事業の基盤を構築。2010年より代表取締役社長COOとして、産業界・アカデミア・教育界を巻き込んだオープンイノベーション・プロジェクトを数多く仕掛ける。これらの経験を活かし、地元茨城の地域活性化を目指して、茨城テックプランターを推進している。文部科学省中央教育審議会大学分科会大学院部会委員、文部科学省次世代アントレプレナー育成事業(EDGE-NEXT)推進委員。

ムを県内で構築することが大切です。各研究機関同士が連携をするだけでなく、そこから生まれた技術シーズを、地域の銀行や地元の企業が、それぞれの強みを活かしながら、そのシーズが育つまで応援し続けられるようになる必要があります。

大井川：そのとおりですね。しかし、研究者がもつ技術や研究成果は異分野の人には理解することが難しく、なかなか外部に発信されずに、未だ眠り続けている技術シーズも多くあると感じています。

高橋：まさにそうした技術シーズを発掘し、いくつもの協力者を巻き込みながら、ビジネスまで共に育てていく仕組みづくりこそが、昨年度から茨城県とリバナスと一緒に挑戦をしている「茨城テックプランター」。始まったばかりの取り組みですが、多数の事業会社が賛同し、パートナーとして参画をしてくれています。リバナスは自らが研究者集団であることを活かし、研究者と支援者を繋ぐコミュニケーターとして、研究成果の意義や重要性を理解し、異分野の人にもわかりやすく発信することで、このベンチャー創出エコシステムの土台づくりに挑んでいます。

大井川：頼もしいですね。大学はもちろん、国の機関が非常に多く存在していることは茨城県の特徴の1つですが、こうした国の機関では大学以上に、その研究成果の発信や事業化が難しいように感じています。しかし、これらの研究機関同士や大学が有機的に繋がり、その成果を正しく外部に発信することができれば、ビジネスとして花開く可能性が大にあると思うのです。こうした研究のシーズ同士を繋ぐ部分や、事業会社を巻き込みそのシーズをビジネス化するという部分で、リバナスさんに期待していますし、それを東京でなく、茨城県内のサイクルで実現してほしいと思っています。

「ものづくり×研究」を武器に

大井川：地元の企業の協力という観点で、茨城県が他県と差別化できる点は、製造業の基盤があるということだと思います。つくばを中心とした2万人以上の研究者と、県北を中心とした数多くのものでづくり企業とが協力しあえば、それは非常に大きな力になるはずです。

高橋：研究開発型ベンチャーにとっては、最初のプロトタイプを一緒につくってくれるものづくり企業のサポートは本当に心強いですからね。技術はあってもプロトタイプがつかないでいるベンチャーは数多く存在しています。共に開発を行ってくれる企業が見つからなければ、その技術を実装させることはできません。

大井川：県内に素質があるのに、それを活かさない状況は避けなければなりません。茨城県には、非常に高い技術を持つものづくり企業が数多く存在しています。彼らが研究者と連携できる仕組みをいち早く構築したいと思っています。しかしながら、今までのように大企業からの仕事を中心に行ってきたという文化を変えることは簡単なことではありません。経営者の高齢化や後継者不足といった問題が深刻であるからこそ、こうしたものづくり企業とベンチャーの連携体制を構築したいと考えています。

高橋：ものづくり企業にとっても、研究者との繋がりは大きな飛躍のきっかけとなるはず。リバネスでは海外のスタートアップの支援もしていますが、日本のものづくり企業の評価は高い。それは日本のものづくり企業の技術が高いからだけではなく、スタートアップの構想をゼロから一緒につくってくれる企業が多いからです。ポンチ絵や設計図を議論しながら書き上げ、そしてそれを驚くべき精度で実現してくれる。日本のものづくり企業にとっては、当たり前前のスキルかもしれないですが、このスキルは大きな武器となります。

大井川：地元の製造業が新しい風を受け、活気づいてくれるといいですね。エッジのたった技術をもつ企業が茨城にはたくさんありますからね。日立やひたちなかなど、この構想が実現していけば、大化けするものづくり企業は多くあるのではないかと私は期待しています。

高橋：私も地域の企業にとっても期待をしています。地域のオーナー企業の経営者は、自分の代でどんな世界をつくりたいのか、どう地域を盛り上げていきたいかを、20年、30年という長期的な目線で考えている。一方、研究開発型のベンチャーもその成長に非常に時間がかかる。そのため長期的なビジョンを共有する点で、彼らは非常に相性が良いと思うのです。連携先を探しているベンチャーを育ててくれるような土壌を、共につくってくれる地元企業と是非仲間になりたいです。



大井川 和彦 (おおいがわ かずひこ)
茨城県知事

茨城県土浦市生まれ。水戸第一高等学校、東京大学法学部を卒業し、1988年に通商産業省(現経済産業省)に入省。同省では1998年から初代シンガポール事務所長を、2002年からは同省商務流通政策グループ政策調整官補佐を務めた。経済産業省退官後は、マイクロソフトアジアに執行役員として参画、その後はマイクロソフト株式会社常務、シスコシステムズ合同会社専務、株式会社ドワンゴ取締役を歴任。これら官・民での経験を活かし、2017年9月に茨城県知事就任。茨城県を「活力があり、県民が日本一幸せな県」にするため、新しい政策に挑戦し続けている。

あらゆる分野で勝負する

大井川：近年、様々なところで「新産業をつくる」「ベンチャーを創出する」という政策は行われていますが、ITやロボットなどすぐに特定の分野に絞る傾向があると感じています。しかし、ベンチャーというのはそういうものではないのかなど。昔からある流通業だって農業にだって、革新が起きる可能性はある。

高橋：強く賛同します。こうしたベンチャー支援において、視野を狭めずに考えることは非常に大切です。異分野が融合するからこそ生まれるビジネスもある。どこにイノベーションの種があるかは、誰もわからないですからね。

大井川：もちろん、つくばを中心に考えるとテックよりにはなるのだけれど、その研究開発を中心とした企業のサポートや、技術を活用するためのコミュニティだとか、あらゆることにビジネスチャンスはあるので、そういうところでも花開くベンチャーがあってほしいですね。

高橋：多様な分野の技術を育てる土壌をつくるには、多くのパートナーが必要です。先程話した製造業だけでなく、インフラ、食品、医療など多くの分野の事業会社の協力が必要になります。県外企業立地件数や工場立地面積が全国1位の茨城県には、多くの企業の工場や研究所があります。また、ベンチャーが立ち上がった後に、支援をしてくれる地元銀行の存在も欠かせません。彼らを巻き込み共に成長していくエコシステムをつくっていききたいですね。

大井川：そのためにも「茨城県だからここにいたい」そう思ってもらえるような県をつくっていかねばなりません。このエコシステムに入ること、研究者との繋がりはもちろん、企業同士の連携だって生まれてもいい。有機的に研究者や企業が融合し、新しいものを生み出していく流れを県内でつくっていききたいです。

高橋：茨城県は、鹿島港や茨城港、さらに茨城空港から世界へ扉が開かれています。グローバルで戦っていくベンチャーは、この地の利を活かしてくれるはず。茨城県の

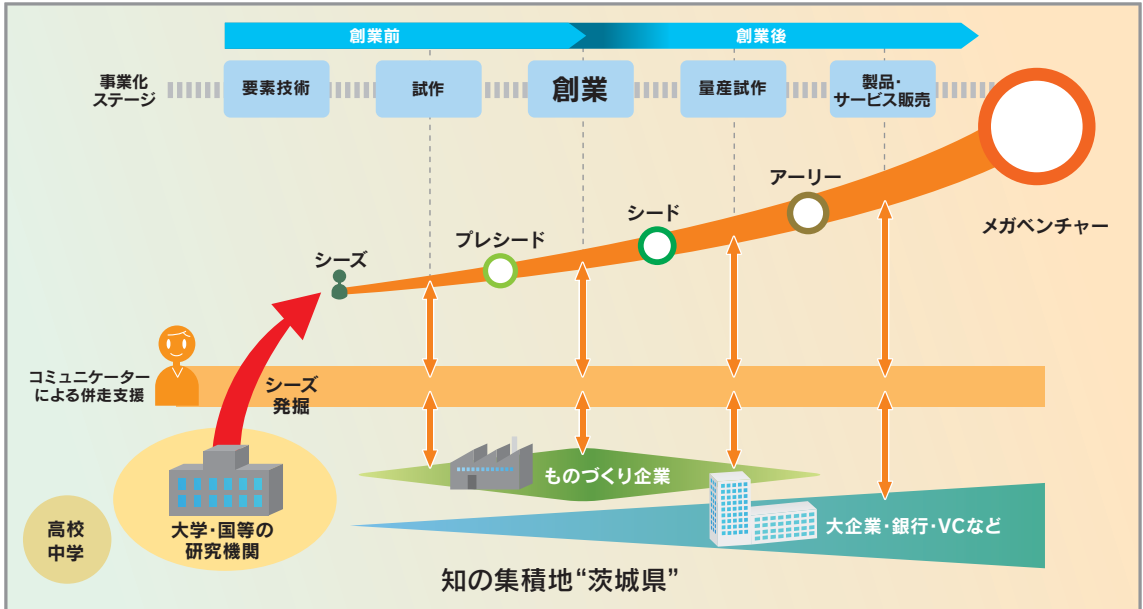
力を集結し、研究者と地元のものづくり企業の連携を実現させる。そして、彼らを様々な分野の事業会社や金融機関が一体となって応援していくことができれば、茨城から世界に直接羽ばたいていくベンチャー創出のうねりができると私は信じています。

大井川：県内の技術を県内の総力で花開かせ、それを続けること。それを分野や立場にかかわらず行う。新たな産業の創造やイノベーション拠点の形成に取り組むことが、「新しい茨城」の実現につながり、茨城に住みたい、住み続けたい人が大いに増えるよう、一緒に挑戦をしていきましょう。

高橋：産・学・官・金が協力しあう茨城県の総力戦ですね。茨城発ベンチャーが世界を変える未来をつくっていきましょう。



県内の技術シーズを育てる仕組みづくりに挑む 茨城テックプランター



茨城テックプランターは、茨城県が有する研究拠点から先進的な技術シーズを発掘・育成し、世界を変える研究開発型ベンチャーの創出と、そのベンチャーが自律的に生み出されるエコシステムの構築を目指している。研究成果を活用したビジネスに挑戦するベンチャーの存在は、現代社会が直面する多様な課題を根本から解決する可能性を秘めているからだ。しかし、こうした技術シーズのビジネス化はその専門性の高さから、意義や重要性を理解されにくいこと、さらには長期的な研究開発を伴うために短期的な売上が立ちにくいことなどといった理由から、発掘や支援が非常に困難である。

そこで、茨城テックプランターでは技術を深く理解し、その技術によって実現される新しい価値を、異分野・異業種の人々にもわかりやすく伝える「コミュニケーター」が、大学や研究機関の研究者一人ひとりと対話し、社会実装の可能性や社会的意義の高い技術シーズを発掘する。さらに、技術シーズを活用した事業化プランを発展させるため、大企

業との共同研究、地元ものづくり企業でのプロトタイプ作製、金融機関からの資金調達など、目的に応じた支援を集結させ、技術シーズの社会実装を実現させていく。こうした「伴走支援」は、研究者側と支援者側の双方に対して、目指すべきゴールを描き、共に発展できるような関係性を築くことができるのだ。

この取り組みは短期的なものではなく、自治体、事業会社、金融機関、ものづくり企業などが、研究者やベンチャーと有機的につながり、長期的に行っていくべきではない。さらに、こうした取り組みを茨城の未来を担う次世代にも伝えていくことも重要だろう。実際に産業を創出することは決して簡単なことではない。しかし、「新しい茨城」への挑戦を経て、構築される人と人との関係性や、ベンチャー支援を実現しようと各社・各機関が集うその環境こそが、茨城テックプランターが目指すべきエコシステムであり、近い将来に産業創出を実現してくれると私たちは信じている。

次ページからは、技術シーズの発掘・育成プログラム「茨城テックプランター」の一環として実施をしている事業化プランコンテスト「茨城テックプランングランプリ」についてご紹介します。また過去の茨城テックプランター参加者の活躍の様子や、本取り組みに賛同してくれているパートナー企業の声も、是非ご覧ください。



IBARAKI
TECH PLANTER.

茨城テックプランター2019始動!

技術シーズを社会実装し、世界を変えたいという
情熱のある研究者・学生の挑戦をお待ちしています!

茨城テックプランターは、茨城県内から新たな産業を創出する技術シーズを発掘・育成するプログラムです。研究成果の社会実装を目指し、ビジネスプランの構築や共同研究先の探索、さらには外部資金獲得や試作の支援など、チームに合わせた伴走支援を行います。またその一環として事業化プランコンテスト「第3回茨城テックプランングランプリ」を開催します。科学技術で世界を変える研究者の皆様の挑戦をお待ちしています!

「第3回茨城テックプランングランプリ」概要

開催日時 2019年11月9日(土) 13:00~18:20 (交流会18:30~20:00)

場 所 常陽藝文センター (〒310-0011 茨城県水戸市三の丸1-5-18)

参加対象 ファイナリスト、パートナー企業、アカデミアの研究者、学生、中高生など

プログラム

- 13:00~13:25 開会式
- 13:25~13:45 基調講演
- 13:45~16:20 最終選考プレゼンテーション
エントリーチームより選出された
チームによる発表
- 16:20~17:20 ポスターセッション/ライトニングトーク
- 17:20~18:20 表彰式/閉会式
- 18:30~20:00 交流会(リバネス主催)



昨年度開催した「第2回茨城テックプランングランプリの様子」

エントリー募集!

申込締切 2019年10月4日(金)

表 彰 最優秀賞、企業賞(複数件)

対 象

- ①茨城県内の大学または研究機関の技術シーズの社会実装やその技術を活かした事業化・創業への意志がある個人やチーム
- ②年齢・国籍・所属不問。学生も参加可能。
- ③世界を変えるQuestionとPassionを持っていることが望ましい

申し込み 下記URLもしくは、右記のQRコードからお申し込みください
<https://techplanter.com/entry/>

エントリーは
こちら



パートナー募集!!

茨城テックプランターでは、茨城県から世界を変える事業を生み出すべく、年間を通して活動を展開しております。本取り組みが県内の新たなエコシステムとして定着・発展していくためには、技術のタネを共に育て、それが花開き、実をつけるまで、伴走いただける県内企業の皆さまの参画が不可欠です。一緒に茨城県の新産業創出に挑戦しましょう。パートナーシップについての詳細は下記までお問い合わせください。

問い合わせ先 株式会社リバネス TEL:03-5227-4198/E-mail: LD@Lnest.jp(地域開発事業部 河嶋)

募集分野

社会課題の解決に資する研究開発型の
テクノロジー全般


モノづくり
分野

食・農業
分野

医療・
創薬分野

バイオ・
ヘルスケア
分野

海洋・
水産分野

こういう方に
おすすめ!  研究成果を社会に活かしたい!
 技術を社会に活かす仲間がほしい!

エントリーフォームでの記入項目

TECH PLANTERメンバーに登録ののち、
Webフォームに記入(10月4日(金)締切)

主な
入力
項目

- チーム情報(1人でも可)
- コア技術(強み)
- 解決したい課題
- 将来のビジョン

エントリーから最終選考会までの流れ

- 1 説明会(8月~9月)
- 2 エントリー相談
- 3 キックオフイベント(9月24日)
- 4 書類提出締切(10月4日)
- 5 選考結果通知(10月22日)
- 6 「茨城テックプランングランプリ」(11月9日)

最優秀賞

賞金30万円

審査項目

以下の審査項目を元に、書類審査、
及び最終選考会を実施

- 1 新規性
- 2 実現可能性
- 3 世界を変えそうか
- 4 パッション

茨城テックプランター2019 スケジュール

2019年

7月 ○エントリー受付開始

8月 ○県内各地で説明会

9月 ○9月24日 キックオフイベント

10月 ○10月4日 書類提出締切

11月 ○11月9日 最終選考会「茨城テックプランングランプリ」

12月

1月 ○リアルテックスクール

2月

3月 ○3月6・7日 超異分野学会本大会

2020年

コミュニケーターによる
ハンズオン支援
チーム形成 / プラン構築 /
登記・プロトタイプ支援 等



2018年度開催 第2回茨城テックプランングランプリ概要



茨城から世界を変えるリアルテック集結!!

茨城県内の大学や国等の研究機関を広く巻き込み、産業に未活用の研究成果の事業化を推進し、実際にベンチャーとして社会実装のロールモデルを生み出すことを目的として「茨城テックプランター」を開催しました。2018年度の茨城テックプランターには、茨城県内の大学や研究機関などから計28チームがエントリーし、9チームのファイナリストが決定。茨城県から世界を変える技術と情熱を併せ持ったファイナリストとして、2018年11月24日(土)に開催した「第2回茨城テックプランングランプリ」で熱いプレゼンテーションを披露。その結果、8つの企業賞と最優秀賞が決定しました。

概要

場 所	つくば国際会議場 〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-20-3
開催日時	2018年11月24日(土)13:00~18:10 (交流会 18:20~19:50)
体 制	主催:茨城県 / 企画・運営:株式会社リバネス
参加対象	事前登録制にて開催 (ファイナリスト、パートナー企業、アカデミアの研究者、学生、中高生)

プログラム

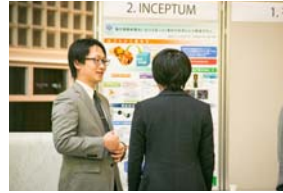
- 13:00~13:30 開会の挨拶／趣旨説明
審査員紹介
- 13:30~16:10 最終選考プレゼン
- 16:10~16:40 特別講演
- 16:40~17:10 ライトニングトーク
ポスターセッション
- 17:10~18:10 表彰式／講評
閉会の挨拶／記念撮影
- 18:20~19:50 交流会



プレゼンテーション



質疑応答



ポスターセッション



交流会

特別講演



講演者	株式会社メタジェン 代表取締役社長CEO 福田真嗣氏
タイトル	最先端科学で病気ゼロを実現する ～便から生み出す健康社会～

地域開発パートナー



協力



後援



第2回茨城テックプランングランプリ ファイナリスト

茨城県内の大学・研究機関から計28チームがエントリー、9チームのファイナリストが決定しました。2018年11月24日、茨城県から世界を変えるアイデアと情熱を併せ持ったチームが、熱いプレゼンテーションを行いました。

1 有用
(物質・材料研究機構)

発表者 阿部英樹
テーマ 光を味方に

「攻め」の抗光老化:
光×水素生成光触媒=薄塗り・1度塗り



水素生成光触媒 なし 水素生成光触媒 あり

優秀賞 NOKグループ ユニマテック賞

2 INCEPTUM
(筑波大学)

発表者 返町洋祐
テーマ 実用的な微生物燃料電池の初の市販化

砂糖から生ゴミまで、あらゆるバイオマスで
発電する装置の製品化を目指す



微生物のチカラが 電気を作る。

常陽銀行賞

3 AgriINFO
(農業・食品産業技術総合研究機構)

発表者 山根逸郎
テーマ 農業・食品情報を活用した経営改善システムの応用



農業・畜産業など agrinfo
生産履歴の提供 (ペンタマーキング)
データ 経営改善
分析結果

日本ハム賞

4 納豆

発表者 宮下裕任
テーマ 世界初納豆バイオテックベンチャー! 納豆で人と地球を幸せにする



筑波銀行賞

5 ケー・イー・バイオ
(筑波大学)

発表者 高谷直樹
テーマ カビにはカビのサーチチェーン




100万種のカビ
抗がん 抗菌脂血症
創薬ターゲット
抗生物質 抗認知症
攻撃 阻害剤 覚醒

協和発酵バイオ賞

6 ケムメガネ
(産業技術総合研究所)

発表者 富田峻介
テーマ ケミカルセンシングが切り拓く世界認識の拡張



ケムメガネ・プロジェクト
あらゆる液体の素性を可視化できるツールの開発を目指して

7 iKnowDamage
(茨城大学)

発表者 中村麻子
テーマ 現場で評価! DNA損傷モニタリングシステムの開発

γ-H2AX assay 蛍光標識抗体でDNA損傷を可視化
・1.2 mGy相当のDNA損傷を検出する
・数時間で解析結果が出る



実験室外の「現場」における解析を可能に!

NOKグループ 日本メクトロン賞

8 結研
(筑波技術大学)

発表者 鈴木拓弥
テーマ 複数音声と同時に字幕提示するインタフェースに関する研究



複数音声と同時に字幕提示
人数が増えると会話量は指数関数的に増加する

フォーカスシステムズ賞

9 材料のチカラ
(物質・材料研究機構)

発表者 内藤昌信
テーマ バイオマス由来の高機能性材料群



三井化学東セロ賞

光を味方に、研究室から世の中を変える第一歩

有用

物質・材料研究機構

阿部 英樹

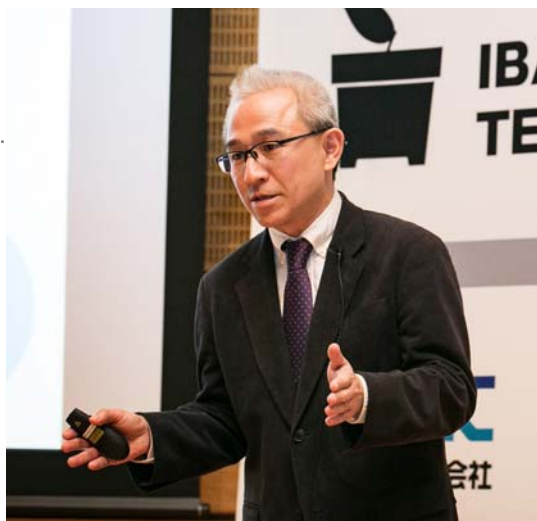
2018年度に開催された第2回茨城テックプランングランプリの表彰式。最優秀賞が発表された時、会場の誰よりも驚いた顔をして、全く身動きがとれなくなっていたのは、優勝者本人だった。物質・材料研究機構で15年以上、触媒の基礎研究を続けてきた阿部英樹氏は今、強い使命感を持ち事業化へ挑んでいる。

身近な素材が秘めていた可能性

普段は目に触れないが、私達の生活を支えてくれている触媒。排気ガス浄化や農業用肥料の合成、さらには抗菌作用など、多様な機能をもつ触媒が研究開発されてきた。しかし最近の触媒研究は高度化し、その名を全く耳にしたことのないような元素を組み合わせ、新規の触媒材料を開発するという傾向にあるという。そんな中、阿部氏のグループは紀元前3000年頃から人類が食器に使用していた元素である「スズ」を用いて、新規の光触媒の開発に成功した。阿部氏らが開発した光触媒は、太陽光などの可視光が当たると水素を生成する。この水素は細胞を攻撃するような光活性酸素を消去してくれる能力を持つため、日焼け止めクリームや化粧品に用いることで、肌の老化・劣化現象を抑止する働きが期待できるのだ。

元素と対話し、たどり着いた社会実装への扉

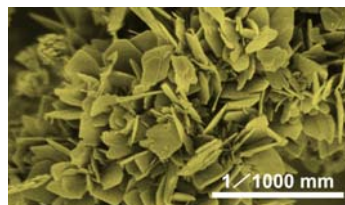
長年、触媒研究を続けていた阿部氏。こんなにありふれた元素から新発見ができるとは思っていなかったという。「私は研究していると、元素にインタビューをしている気持ちになります。あなたはどんな方ですかと。スズはごく庶民的な元素です。ほかの元素とのつきあい方ではシリコンに似ているけれど、ずっとあたりがやわらかい。やわらかいだけならば鉛もですが、スズは生物に無毒です。スズはおおらかで優しい。でも芯がある。光を吸って水素を作るなんていう不思議な力を隠していました。」非常に特異的な性質を



もつ一方で、既に産業界でも使用されているスズを使った触媒は安価であるため、事業化への可能性が高まる。今まで沢山の触媒を開発してきたが、ようやく世の中のためになるようなものにたどり着いた。好きなだけ研究をやってきた分、これからは社会に貢献するような成果をだしていただくのだと使命感が高まっていた時、茨城テックプランターと出会った。

光を味方にする社会をつくる

「優勝するとは夢にも思っていなかった。」と阿部氏は語る。研究成果も未だラボスケールで、事業化への知識もない。しかし長年の基礎研究の上に成り立つ確かな技術と、絶対にこの研究と挑戦をやめることはないという阿部氏の強いパッションに、審査員たちは心を動かされたのだ。茨城テックプランターの年間の取り組みを通して、今まで接点のなかった事業会社との繋がりが生まれ、社会実装に向けた協力が始まっているという。阿部氏の夢は、化粧品開発ではとどまらない。美容分野と同様に、過度な光が当たると悪影響を与えてしまうような、建築分野や農業分野などでの活躍に期待が寄せられている。光を味方にした彼の挑戦は、今始まったばかりだ。



阿部氏が開発した光触媒
(酸化スズ: Sn_2O_3)

茨城テックプランターから創業へ!



面白い事業を作りたいという情熱を 自分の手でカタチにする

株式会社インセプタム
代表取締役
返町 洋祐

代表の返町氏は、生ゴミや下水汚泥などのバイオマスから発電する微生物燃料電池の開発を目指して茨城テックプランターに参加した。30年ほど研究されてきた技術だが、実用化には課題が多くある。学生という立場に捉われず自分で開発を推進して行きたいという情熱があり、事業化を目指した。最終選考会までにコミュニケーターと6回以上も面談を重ね、自分のプランのコアとなる技術、これまでの思いなどを端的に表現する方法を身につけた。先輩研究者が居並ぶ中で堂々と発表し、常陽銀行賞を受賞。大学院から出ると同時に筑波大学発ベンチャーとして登記することができた。

「微生物燃料電池という1つのプロダクトにこだわらず、面

白いことを実現していく会社になりたい」という返町氏の思いは、ラテン語で「試す」を指す社名に込められた。最初に目指すのは教材レベルの電池作りだ。現在は、国立の研究機関で研究員として所属し、コミュニケーターと定期的にコンタクトを取りながら、テックプランターにあるネットワーキングの機会を活用している。司法書士との登記の相談、ウェブサイト作り、教材開発、イベントで出会った仲間と出前授業を開催するなど、進められることを一歩ずつ試している。学生でも強い情熱とリーダーシップがあれば、無理せず事業化を進められる方法があることを彼は示してくれた。その一步一步と一緒に考えて行く応援団が茨城テックプランターにはいる。



すべての人が最適な予防を選択できる 社会をつくりたい

株式会社Exult
代表取締役CEO
塩見 耕平

理学療法士として重度の糖尿病患者のリハビリを担当していた塩見氏。どんなに献身的なサポートをしても既に重度に達してしまった患者は、二度と元の生活を取り戻すことはできない。「もっと早い段階で彼らの生活や行動を変えることができれば」とそんな憤りにも似た感情から、科学的な知見に基づく病気予防を実現すべく、ベンチャー立ち上げを決意した。筑波大学が実施しているEGDE-NEXTプロジェクトへの参加をきっかけに、同じ理学療法士の資格をもつ古蘭氏、遠藤氏とチームを結成。苦戦をしながらも事業プランをつくっていた時、茨城テックプランターの存在を知った。

自分たちのビジネスプランを事業会社にぶつけるチャンスだと、準備をしていたが現実には厳しく、チームExultはファイ

ナリストに次ぐライトニングトークとして発表を行った。「スタート時点にも立っていないことが悔しかった。」とグランプリ後に語った塩見氏。ここからの彼の行動力は凄まじかった。茨城テックプランターの一貫として実施した「リアルテックスクール」を活用し、事業計画の整理や登記準備を急ピッチで進め、2019年3月には念願の起業。さらにはテックプランターで得た人脈を活かし、ベンチャー企業とのパートナーシップも実現。現在は、血管年齢に着目した生活改善のサービス開始に向けて日々奮闘している。特許もビジネスに対する知見もない。それでも科学の力を信じ、世の中の課題を必ず自分が解決するという強いパッションで会社を立ち上げた塩見氏から、今後も目が離せない。

茨城テックプランターから共同研究へ!



アカデミアの研究と教育を 社会と結びつける

iKnowDamage
茨城大学
中村 麻子

身内が小児糖尿病という一種の遺伝疾患にかかったことがきっかけで、遺伝子疾患の治療に興味を持った中村氏。大学院修了後にアメリカでDNA損傷を可視化する技術に関する研究を続け、日本に戻ってきたのが2011年3月12日、東日本大震災の翌日だった。放射線のような外的要因によってDNAが損傷する際に生じるリン酸化H2AX「 γ -H2AX」というタンパク質のモニタリングの研究開発を行っていたので、放射線に対して不安を感じる人のために何かできるのではないかと感じたという。放射線の影響を素早く知ることのできる技術であり、現在は研究室で測定しなくても現地でDNA損傷レベルを測定できるシステムの開発を進めている。さらに、この技術は

放射線だけでなく、紫外線、たばこの煙など様々な外的要因によるDNAレベルの影響を可視化できると期待されている。

学術レベルのみでなく、社会実装を実現化するために2018年の茨城テックプランターに参加。見事ファイナリストに選出され、NOKグループ日本メクトロン賞に輝いた。グランプリを通してテクノロジーの社会実装にはビジネスモデルの構築が重要であることを体感し、自ら立ち上がり、研究室の学生も巻き込んで事業化を進めている。すでにパートナー企業数社と共同研究契約を締結し、起業を視野に開発。大学の教員としても「研究と教育が社会に結びつく」ことを実感できるラボになりたい、とチャレンジを続けていく。



聴覚障害者が抱える困難を、 テクノロジーを組み合わせることで軽減する

結研
筑波技術大学
鈴木 拓弥

鈴木氏は筑波技術大学で教鞭を執り聴覚障害の学生と向き合ってきた。同大学赴任後、インタフェースの研究者として、聴覚障害者に対する教示支援研究に取り組み、様々な支援システムを開発してきた。現在、鈴木さんが解決を目指すのは就職後の学生の疎外感だ。大学卒業後、就職した卒業生を待ち受けるのは多数の健聴者に囲まれる環境である。会議に代表される多数の健聴者の中に少数の聴覚障害者が加わる場面では、コミュニケーションの断絶が起きやすい。

複数人の会話内容が字幕化され聴覚障害者が持つデバイスに表示できれば、コミュニケーションの困難を必ず緩和できると、自らの研究成果とビジョンを第2回茨城テック

プラングランプリで発表。見事フォーカスシステムズ賞を受賞した。インタフェースの研究者は他の技術者や研究者とチームを組む必要があるため「茨城テックプランターという場に参加することで研究者や企業と共同する機会が得られた」と鈴木さんは語る。

2019年4月には株式会社フォーカスシステムズと「複数人との会話におけるリアルタイム字幕表示に関する共同研究」を開始。結研という名前に込めた、聴覚障害者と健聴者との結び目創出に向けてパートナーと共に第一歩を踏み出した。

2017年度からスタートした茨城テックプランター。2018年度は「茨城県ベンチャー企業創業・事業化支援業務」として、地域開発パートナー企業7社、協力企業2社、後援機関6機関とともに、茨城県発のベンチャーエコシステムの構築に向けた取り組みを数多く実施しました。

7月23日～



エントリー募集開始

初めて茨城県主催事業として茨城テックプランターのエントリーの募集を開始。各大学・研究機関等で説明会を行いました。

10月14日



キックオフイベント

エントリー者と地域開発パートナーの交流を行い、17チームがビジネスプランを発表しました。

11月24日



第2回茨城テックプラン グランプリを開催

28チームのエントリーから9チームがビジネスプランを発表。7社の地域開発パートナー、2社の協力企業と県との熱い議論が交わされました。

2018年

7月

8月

9月

10月

11月

コミュニケーター
による伴走支援

理念設定・チーム形成
ビジネスモデル構築

プレゼンサポート

テックプランターエントリー者へのサポート

専門外の人に
わかりやすく

▶ 科学コミュニケーション支援
専門的な技術や課題感、事業構想がわかりやすく伝わるよう支援

実行できる
事業計画づくり

▶ 事業計画立案支援
リバネス自身の経験を活かして、未経験からでも実効性のある計画の立案を支援

図面なしからの
ものづくり

▶ 試作開発支援
研究者やベンチャーの構想を形にするプロトタイプ作製から支援。ポンチ絵や図面作成など、ゼロからのものづくりをサポートします。

研究体制の
立ち上げ

▶ 研究開発支援
リバネスの共同ラボのような試作支援施設の活用、大学、事業会社などとの連携により研究体制の構築を支援

売上を立てて
日銭は稼ぐ

▶ 販売支援
早期の黒字化と、自己資金での成長を実現できるように、ビジネスモデル立案と販路開拓を支援

起業家のための
コミュニティ

▶ 投資家・専門家とのマッチング支援
法人設立、VCからの資金調達、知的財産、法務など、運営に必要な専門家との連携を支援

テックプランターの活動では、事業化プランコンテスト後も、数年をかけてエントリーチームと一緒に事業化やチームづくりなどを進めていきます。年数を重ねるごとに、進化・拡大していく茨城テックプランターチームに今後も注目です。

2月15日~27日



リアルテックスクールを開催

起業を目指すチームに向けて、司法書士やファンドの専門家から登記や登記や経理・法務関係に関するレクチャー・個別の面談を実施しました。

3月7日・8日



超異分野学会にてポスター発表と海外理解セミナーを開催

研究者や企業が分野を超えて集まるイベントにて、仲間探しや連携先を探すためポスター発表に参加しました。また海外テックプランターのオーガナイザーから、海外の市場やベンチャー事業についてのレクチャーを受けました。

3月14日



交流会の開催

チームの進捗報告と、大学で研究開発型ベンチャーを立ち上げた先輩起業家の話から、研究開発型ベンチャーならではのハードルの乗り越え方について知見を得ました。

2019年

12月

1月

2月

3月

事業化支援・連携促進・経営サポート

ベンチャー創業や共同研究の成果が続々誕生!

起 業

茨城テックプランター2018を通して3チームが創業しました。3月に実施したリアルテックスクールで彼らの登記をサポート!

- 株式会社Exult(茨城県つくば市)
- 株式会社インセプタム(茨城県つくば市)
- 株式会社納豆(茨城県水戸市)



企業連携

茨城テックプランターでの出会いをきっかけに共同研究や技術連携が数多く生まれています。

- 結研(筑波技術大学) × 株式会社フォーカスシステムズ
- iKnowDamage(茨城大学) × 株式会社フォーカスシステムズ

その他非公表の連携も複数

茨城テックプランターエントリー者向け

REALTECH SCHOOL

リアルテックスクール

茨城テックプランターエントリー者を対象に、研究開発型ベンチャー立ち上げのノウハウを伝える「リアルテックスクール」を開催します。200社以上のベンチャー企業の立ち上げを支援してきた講師陣を迎え、創業に向けた様々な基礎知識の他、研究開発型ベンチャーの立ち上げ期に陥りがちな課題や、事業を伸ばすコツをお伝えします。ふるってご参加ください。



創業に関する個別の相談も
プログラムの前後の時間で
受けつけます

過去の相談例

共同研究と事業連携の違いは？
資本金はいくら用意すればいい？
どうチームで創業するのがいい？

実施時期・時間	2020年1月～3月 17:00～19:00
場 所	つくば研究支援センター(茨城県つくば市千現2-1-6)
対 象	茨城テックプランター にエントリーした方
申し込み	12月頃開始予定
問い合わせ	株式会社リバネス 人材開発事業部 環野 hd@lnest.jp

プログラム案(予定)

日 程	内 容	講 師
1月31日(金)	会社設立と財務について	株式会社リバネス 取締役CFO 池上 昌弘
	シードアクセラレーター活用と 資金調達の方法	株式会社グローカリンク 代表取締役社長 大坂 吉伸
2月7日(金)	司法書士の活用法と ベンチャー支援の実施	司法書士行政書士あゆみ 総合法務事務所代表 田中 あゆ美(司法書士)
	海外展開の可能性の調べ方	株式会社リバネス 国際開発事業部 部長 武田 隆太
3月13日(金)	交流会	



研究開発型ベンチャー×中小企業で 世界の課題解決に挑む

～世界初のテクノロジーを具現化する仲間を求む～

研究者、開発者との出会いが、 事業者を強くする。

得意先からの発注が突然半減する。バブルの崩壊後、幾度となく繰り返されてきた悲劇だ。たとえ今は好調でも、得意先からの発注がいつなとき途絶えてしまうかはわからない。そのリスクに対応するために求められているのが、自社が主体で興す新規事業だが、自力でそのタネを見つけていくのは至難の技だ。なぜなら、現状の営業ルートやネットワーク上には、当然既存顧客しか存在しないからである。そこで茨城テックプランターが提案しているのは、大学や研究所の中にいる、まだ世に出ていない科学技術を有する研究者や開発者との出会いだ。彼らとともに開発をすすめていく過程で、新たな連携先や顧客などのネットワークが広がり、結果として新規事業が生まれていく。

研究者との連携をきっかけに、 自社技術と事業ドメインを 再定義する町工場

例えば、大阪・大正区で110年続く町工場、株式会社木幡計器製作所は研究者との共同研究・共同開発を経て、2018年に医療機器を上市した。いわゆるブルドン管式圧力計の製造販売を行っていたが、気体・液体の圧力や差圧を計測できる技術は医療現場でも必要とされていた。誤嚥性肺炎を代表とする呼吸器に関する症例が多く見られる一方で、安価に呼吸筋力を測定する機械は存在しなかった。そこで、同社は研究者との共同研究に取り組み、5年かけて薬事許認可を取得するに至った。さらに、自社の開発経験をもとに、現在は滋賀医科大学、関西医科大学との連携協定を締結し、臨床ニーズに応え、医療分野の研究成果を活かす医療機器開

発を進めている。代表の木幡巖氏は100年超の歴史を経て、自社を老舗ベンチャーとして再定義し、「安心・安全・信頼を可視提供する」ことを事業の軸に立て直したのだ。こうした事例は新規事業創出だけでなく、採用にも影響を生んでいる。3Kという言葉に表現される町工場に、ベンチャー連携、医療機器開発などのキーワードが上書きされ、大企業からの中途採用や新卒採用にもその好影響が出てきたのだ。



滋賀医科大学と木幡計器製作所の連携協定式の様子

茨城県という地域の特異性

茨城県には、株式会社木幡計器製作所のように、1分野に特化した製品をつくり続けているような中小企業だけでなく、金属加工や金型製作を得意とするような企業や、中後期量産を得意とする企業も数多く存在するだろう。彼らは、研究者やベンチャー企業の構想をプロトタイプに落とし込んでいく強力な支援者となりうるだろう。また、県外の大手企業の研究所や工場が密集していることも大きな特徴である。一方で、つくばや水戸を中心におよそ2万人の研究者を有し、日々新たな技術開発が行われている。しかし、最初の一步の連携先をうまくみつけれずに、埋もれたままになっている技術も少なくないだろう。だからこそ、県内の事業者にはぜひ茨城テックプランターの現場で熱のある開発者や技術者と出会い、新たなネットワークを築き、世界初の事業を一緒に生み出して欲しい。

イベント「研究者と県内企業が創る茨城のみらい」開催！

新規事業になりうるタネやパートナーを探している県内企業と、技術シーズをもつ研究者が交流できるイベントを開催します。ご興味のある方は、ぜひご参加ください。

【日時】8月30日(金) 18:00～21:00 【場所】M-WORK(水戸市南町1-2-32) 【参加申し込み】こちらから



次ページより、茨城テックプランターの地域開発パートナーの事例を紹介します。

高い技術力を武器に研究者と挑戦し続ける「夢追い」企業

NOK株式会社

常務執行役員 事業推進本部 副本部長

兼 グループ経営企画部長

折田 純一

「NOKに頼めばなんとかしてくれる」そんな高い技術力で着実な信頼を得てきた町工場が、一部上場の大手企業にまで成長した。事業を支える要となるグループ会社を含め、多くの拠点を茨城県にもっている同社。自社の発展を支えてくれた茨城県への貢献、さらには茨城県が誇る研究者との連携による新規事業創出に挑む考えを、常務執行役員 事業推進本部 副本部長 兼 グループ経営企画部長の折田氏に伺った。

日本のものづくりを支えるグループの力

NOK株式会社は日本初・世界トップシェアのオイルシールメーカー。オイルシールとは、自動車、電車、航空機、家電製品などに使用されている内部部品であり、機械の潤滑油から空気やガス、塵埃などが機械の内外に漏れ出て不具合を起こさぬように機能している。さらに同社はスマートフォンやテレビに欠かせないフレキシブルプリント基板(FPC)を日本で初めてつくった会社として業界も牽引。高い技術力で、私達の生活を助ける機械の「中」を支えているリーディングカンパニーである。この高い技術を維持し続けられている理由の一つは、エッジのたったグループ会社の存在だろう。そんなNOKは現在、長年培ってきた技術開発ノウハウとグループで挑むチーム力を武器に、研究者との連携から世界を変えるような新規事業の創出を狙っている。

堅実な技術とユニークなアイデアの融合を求めて

グループ会社の一つであり、茨城県内に多くの拠点を構える日本メクトロン株式会社。彼らは、FPCの製造販売を行っており、デジカメやスマートフォンで培った技術の新たな用途を探している。また、自動車や様々な機械などで採用されている潤滑油を製造販売しているNOKクリューバー株式会社。またNOKグループを下支えするフッ素化合物や特殊合成ゴム製品を製造しているユニマテック株式会社らでは、ユニークなアイデアをもった研究者との連携に期待を寄せている。内部の人間だけではその思考にバイアスが掛かってしまう。だからこそ、外部の研究者やベンチャーがも



つ、突出したアイデアを求めている。NOKは町工場として大きくなっていった時代からつくばの地で研究開発に投資し、材料の性質を可視化することに成功している。こうした基礎研究によって築き上げられた技術に、研究者の柔軟な考えや異分野の研究シーズが攪拌され組み合わせたとき、必ずやイノベーションが起こると信じているのだ。

熱意ある研究者と世のためになるものづくりを

数々の拠点を茨城県にもつNOKグループだが、意外なことに県内の研究者、特に大学との繋がりは多くはなかった。そこで社内の体制改革も実行し、2017年にNB(ニュービジネス)開発本部を設立。外部の研究者との連携強化をはかるべく、2018年度より茨城テックプラントへの参加を開始した。すると、材料開発に欠かせないケミカル分野など親和性の高い研究者が、予想以上に身近にいるという事実が改めて気付かされた。さらにその発見によって、グループ内での外部連携への意欲も向上した。こうしたオープンイノベーションに、内部の「熱意」は非常に重要だ。そしてその「熱意」を共有できる研究者と仲間になりたいと折田氏は語る。「NOKは決して派手ではないですが、世の中のためになる製品をつくり続けてきました。だからこそ、その熱意を共有できる相性の良い研究者と新しいものづくりに挑んでいきたいですね。」ステークホルダーすべてが誇りを持つ企業をめざし続けているNOK。互いが刺激して高め合うような関係性を育み、新事業の創出ひいては茨城県の発展に貢献していくことだろう。

食の課題を共有し、共に歩む仲間を見つきたい

日本ハム株式会社

中央研究所 主任研究員

長谷川 隆則

人々の楽しく健やかな暮らしのために欠かせない「食」。世界的な人口増加の影響で、2050年には現在の約2倍のタンパク質供給が必要になると言われている。そんな中、日本ハム株式会社は、将来世代の食べる喜びと持続可能な食料生産を実現するため、中期経営計画に「未来につなげる仕組みづくり」を掲げている。技術力強化の土台づくりのため、様々な分野の研究者やベンチャーとの連携に力をいれる同社が、茨城テックプラントで出会う研究者に期待するものとは何なのか。中央研究所 主任研究員の長谷川氏にお話を伺った。

茨城という地の利を活かしきる

日本ハム株式会社は「ハム」という社名から加工品のイメージが強いが、実は売上の半分以上は精肉が占めており、水産や乳製品も手がける同社は日本を代表するタンパク質供給メーカーである。事業の特徴は、大規模な豚・鳥の農場と処理場をもち、食肉の生産から加工、販売までを一貫して行っている点にある。こうした背景から、同社のつくばにある中央研究所では食の安全や健康に関する研究の他にIoTを活用したスマート養豚技術など生産現場の基礎研究が進められている。実は茨城県内には、中央研究所の他に常総市と筑西市に2つの技術開発室があり、同社の研究拠点が全て集約されている。地の利点も活かしながら、同分野の研究者とのパイプは太く育ててきた一方で、この茨城には未だ多くの未知のアイデアを抱えた研究者がいるにもかかわらず、つながる場を持たずにいた。そんな中、2017年に中央研究所は茨城テックプラントに参画を開始した。

新しい技術や視点を学び、共に社会を変える

茨城テックプラントでは、今まで全く接点のなかった領域の研究者に出会うことができるのだと、長谷川氏は語る。「テックプラントでは、技術の説明だけではなく、その技術を使って世の中にどんな貢献ができるのかを熱を込めて伝えてくれる。だからこそ、分野外の研究でも、社会的価値や連携のイメージをわかせることができるのです。」単に事業会社



が研究者を評価するビジネスプランコンテストとは異なり、エントリー者とコミュニケーションを図るなかで、「この技術は日本ハムではこう利用できるのではないかな」と企業活動に合わせた活用の議論もできる。こうした交流の中で、自社側のやりたいことを実現してくれる研究者を探すだけでは、真の異分野融合、新規事業の創出は難しいことに気づくことができた。「畜産・食品業界においても、社会の発展に適応していくために必要な技術範囲はどんどん広くなる。最適なパートナーを得て、新しい技術や視点を学びながら、課題に取り組んでいくことが重要と考えています」

課題を共有できる仲間を求めて

テックプラントには著名な研究者ばかりでなく、学生や若手研究者がエントリーしている。「自分たちと同世代の研究者が、自ら事業を興し、熱意と技術で本気で世界を変えようとしている。」テックプラントに参加した社員は、その熱意と覚悟を肌で感じ、新たなモチベーションを得ている。そして参画3年目の今年は、そんな覚悟を持ち合い「課題」を共有する仲間に出会いたいと長谷川さんは語る。「専門領域や技術が全く違っていても、解決したいと思う課題が同じであれば、同じ目標を持ち新しい事業を創っていくことができるはずだと感じています。食、タンパク質、農業、環境、スポーツなど、様々な分野に関心がありますが、自分の技術で、世の中の課題を解決するのだという強い夢を持った研究者と出会いたいですね。」課題を共有した研究者と企業の強い結びつきが、世界の未来を切り開いていってくれることだろう。

TECH with HEART ~テクノロジーにハートを込めて~

株式会社 フォーカスシステムズ

代表取締役社長

森 啓一

システムインテグレーターとして、社会基盤をITで支えてきた同社が、次世代のために研究者との連携を積極的に進めている。世界に誇る日本発の技術を育て、社会に実装するために、大企業と研究者がタッグを組んで、未来を創り出している。

社会と人を支える技術にハートを込める

フォーカスシステムズは1977年に設立し、三つの柱で社会と人を支えてきた。1つ目は社会保険システム、航空管制システムなど多くの公共システムや、通信制御システム、組込システム、業務アプリケーションなどのシステム開発を行うシステムインテグレーション事業。2つ目は大手企業のインフラ設計構築やシステム保守運用を行うITサービス事業。そして3つ目は警察や防衛など、多くの官公庁に導入しているデジタルフォレンジックを強みとする情報セキュリティ事業である。代表の森啓一氏は、監査法人や、税務会計事務所を経て1998年に入社。当時、店頭公開していた同社の経理を一手に任せられ、2011年に代表取締役社長に就任した。「テクノロジーに、ハートを込めて。」というコーポレートスローガンを掲げ、「人と人を技術で繋ぐ私たちだからこそ、ハートを大切にしないといけない。」という想いのもと、順調に企業として成長を続け、4本目の柱となる新規事業の育成にチャレンジしている。

大企業と研究者で日本発の世界に誇れる事業を

ICTを活用した社会・経済システムの改革が加速していく中で、最先端のテクノロジーを取り入れた、新たなソリューションの創造は欠かせない。2018年、VR・AI・ブロックチェーン等、先端技術開発を行うベンチャーの設立や、大学研究機関との共同研究、茨城県笠間市とのドローン活用等による連携協力協定など、新たな事業の創造に向けた取り組みを始めた。

茨城テックプランターに出会ったきっかけは、森氏自身が茨城県出身であったことだ。地域社会への貢献を考えたとき、子どもの教育環境や研究者の処遇などを鑑み、日本の技術力を生み出し支える基盤がゆらいでいると感じた。そこ



で、研究者と企業が力を合わせることで「日本は世界に通用する技術を生み出し続けていけるんだという誇りを取り戻したい」と話す。

ここから楽しむ研究者と未来を創造する

いざ県内の研究者に目を向けてみると、つくばを中心として日本発で世界に通用する技術のタネが豊富に眠っていた。そこで2018年の茨城テックプランターをきっかけに、筑波技術大学の「結研(15ページ)」や、茨城大学の「iKnowDamage(15ページ)」などと共同研究や連携をすでに開始し、社会実装に向けて加速させている。そして、新たに注目している分野は食や農林水畜産分野だ。また看護や介護分野など福祉分野についても、人と人の心のコミュニケーションが欠かせず、円滑なコミュニケーションや労働負荷の軽減のためにITが活躍できる部分は多い。

研究者が人生をかけて楽しそうに研究している、そんな姿に感銘を受け「多くの研究者が楽しくチャレンジできる環境を創り、未来を創造していきたい」と話す森氏。大企業と研究者、ベンチャー連携で茨城からどのような事業が生まれてくるか、今後も目が離せない。



茨城の創業応援 ～地方銀行の挑戦～

茨城県の経済を支える2つの地方銀行でも、研究成果の社会実装に向けた独自の取り組みが進められている。金融機関としての強みを活かしたこれらのプログラムと相互連携を図ることで、地域に根ざした創業エコシステムの構築も加速されていく。



めぶきビジネスアワード

「地域経済を牽引するような新たな事業が次々と生まれ、地域の方々と共に、地域が活気にあふれるようにしたい」という思いから、2012年から常陽ビジネスアワード、その後2016年からはめぶきビジネスアワードを開催。ものづくりなどの「成長分野」や「地方創生」の取り組み、地域のしごと創出に繋がる「創業分野」など8つの事業分野をテーマに事業プランを募集した。第3回めぶきビジネスアワードでは、571件のエントリーの中から28件が表彰された。

■主な受賞先(茨城県内企業のみ抜粋)

受賞名	企業名	所在地
最優秀賞	ティエムファクトリ株式会社	東京都港区 ※茨城県が誘致し本社機能を県内に移転予定
茨城県知事賞	株式会社プリウエイズ	茨城県つくば市
特別賞	いばらきキャビアフィッシュ協会	茨城県常総市
	株式会社関東技研	茨城県那珂郡東海村
	株式会社フロンティア	茨城県高萩市
日立製作所賞	VeBuln 株式会社	茨城県つくば市
大学発イノベーション賞	増永 英治	茨城県日立市

■お問い合わせ
常陽銀行 地域協創部 TEL:029-300-2961

筑波銀行 つくば地域活性化ファンド

筑波銀行は、2015年に地域経済の活性化に向けた取り組みとして、筑波総研株式会社(100%子会社)を運営会社とする、「つくば地域活性化ファンド投資事業有限責任組合(名称:つくば地域活性化ファンド)」を設立。2016年の第1号案件から、2019年の第11号案件まで一貫してつくば地域のベンチャー支援を続けており、2019年には、第二号ファンドの設立にまで至っている。

また、地域活性化ファンドの他、2018年3月には地域のスタートアップ企業支援を目的とし、取引先のCYBERDYNE株式会社と、社会課題解決と新産業創出による地域発展を目的とした包括連携に関する協定を締結。協定に基づく第1号の案件として、物質・材料研究機構発ベンチャー企業(株)マテリアルイノベーションつくばに対し資本支出を含む事業支援を進めている。

■地域活性化ファンド投資先

ファンド・案件	企業名	所在地
第一号・第9号案件	株式会社S'UIMIN	茨城県つくば市
第一号・第10号案件	地球科学可視化技術研究所株式会社	茨城県つくば市
第一号・第11号案件	株式会社Full Depth	茨城県つくば市
第二号・第1号案件	株式会社ワープスペース	茨城県つくば市



CYBERDYNE社との協定式

■お問い合わせ
筑波銀行 ビジネスソリューション部 和田 TEL:029-859-8111(内線2681)

“知の集積地”茨城から世界へ

技術シーズの発掘・育成プログラム

エントリー募集中!!



IBARAKI
TECH PLANTER.

応募締切	2019年10月4日(金)
最終選考会	2019年11月9日(土)13:00~18:20(交流会18:30~20:00)
場 所	常陽藝文センター(〒310-0011 水戸市三の丸1-5-18 常陽郷土会館内)
表 彰	最優秀賞、企業賞(複数件)
参加条件	①茨城県内の大学または研究機関の技術シーズの社会実装やその技術を活かした事業化・創業への意志がある個人やチーム ②年齢・国籍・所属不問。学生も参加可能。 ③世界を変えるQuestionとPassionを持っていることが望ましい ※詳細はp8、9をご覧ください。

エントリーは
こちら



<https://techplanter.com/ibaraki2019/>

主催:茨城県/企画・運営:株式会社リバネス

本取り組みは、茨城県の令和元年度ベンチャー企業創業・事業化支援業務を株式会社リバネスが受託し、企画・運営を行っています。茨城県の特色を活かした新たなビジネスモデルを展開し、短期間のうちに急激な成長を目指すベンチャー企業の創出・育成に向けて、県内の技術シーズの発掘、事業化プランの構築・事業化に向けた支援を実施しています。ベンチャー企業が自律的に生み出されるベンチャーエコシステムを構築することを目指しています。

【お問い合わせ先】

株式会社リバネス 地域開発事業部
TEL:050-1744-9266 E-mail: LD@Lnest.jp